

＜モリベン技法の由来 ・ アーティストまでの経緯・背景として＞

現代美術家の森勉(モリベン)は、
世界的なファッションデザイナー森 英恵を祖母に持ち 幼い頃から芸術やファッションに囲まれている恵まれた環境に育つ。
そして 天性の感性により美術家となったアーティスト・森勉は、

慶応普通部(幼稚舎)の 5 年生・6 年生時に絵画コンテストにおいて準グランプリとグランプリを受賞した経緯で、好むモチーフである爬虫類(特にワニなど)を描写するにあたり、ゴツゴツした具合をいかに表現するかななどを模索し、その延長線上に現在の森勉オリジナルの立体的な 3D 点描へと到達した。

今日まで、美術史上 点描技法を使う作家は多数見受けられるが、立体的な点描を駆使した平面絵画は、これまで ほとんど見られていない。

その後、ファッションの仕事に携わる時期もプライベート(夜の時間帯など)に絵画制作を継続する。(ファッションブランドは伊藤忠が中心となり BEN MORI とホワイトレーベン という本人によるブランド展開を 5 年前後継続し NY5 番街のセレクトショップなどでも取り扱いされる)
そして、2014・5 年頃～完全にアートへシフトしセゾン現代美術館ギャラリーのメイン取扱い作家やベネチアビエンナーレに次ぐフィレンツェビエンナーレにもノミネート-出展というキャリアを積み重ねて現在に至る。